

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

BCP（事業継続計画）の3つの段階 佐竹 隆幸（関西学院大学教授）

1. 中小企業は今、大きく4つの問題に頭を悩ませています。「従業員の賃金の支払い」「金融機関からの借り入れの返済」「家賃の支払い」「生活費をどう捻出するか」です。政府はさまざまな生活支援策を打ち出していますが、まだまだ追いついていないというのが現状です。金銭的な支援も含め、さまざまな形の支援を継続的に行わなければ、相当数の中小企業が倒れるのでは、と危惧しています。
2. BCP（事業継続計画）には大きく3つの段階があります。「自然災害やテロ攻撃などの緊急事態に遭遇したその瞬間、どう対応するか」、続いて「差し当たりどう事業を継続していくのか」、そして「どう元の状態に戻していくのか」です。新型コロナの影響を受けた企業の多くは、まだ1つ目の段階で、今なお次の段階に進めていません。ただし、以前からBCPを作成し、実行している中小企業は、強さを見せています。とりわけ日頃から地域内の連携、たとえば地域の経済団体や金融機関、土業などの関係性を密にしてきたところは、ダメージは受けていてもつぶれるところまでいっていません。
3. 地域内で連携できていることは、地域内で信頼関係が醸成されていることを意味します。そこには取引や投資が発生してお金が動き、雇用が生まれます。こうした地域経済の循環の中で、なくしてはならない存在になれるかどうか、中小企業が事業を継続するうえで非常に重要だということです。

(参考:「週刊東洋経済」2020年8月1日号)

経営者のための理念・哲学

人生は常にこれから

1. 佐藤一斎 86歳、諸橋轍次 99歳、鈴木大拙 95歳、渋沢栄一 91歳、松永安左エ門 95歳、松下幸之助 94歳で没。こうして見てくると、道を求め努力してやまない人に長生きの人が多く見えます。
2. 次の三氏の言葉をご紹介します。「人生の晩年に近づいたならば、青壮年の時代以上に、心を引き締めて、人生の晩年の修養に務めなければならない」（森信三 96歳）、「生きるとは情熱を持って燃えることだ。燃える心を忘れていたような生き方は気の毒な生き方ではないでしょうか」（平澤興 88歳）、「人間はいつかは終わりがくる。前進しながら終わるのだ」（坂村真民 97歳）。名人達の言葉は一如である。人生は常にこれからと思えば前進していきたい。

(参考:「致知」:2020年10月号)

経営者のための危機管理

外食が生き残る道 堀埜一成（サイゼリア社長）

1. 外食で生き残るルートは3つです。まず、ウイズコロナの時代を生き残るため、とにかく感染不安を解消する。2つ目はアフターコロナで目指すべきフォーマットを固める。ファストフードです。そしてもう1つは成熟期に入っている低価格レストランで、戦略戦術を大きく変えることです。伸びている時は既存顧客の対応を多少犠牲にしても拡大を重視しますが、成熟期では顧客との接点が大事になる。しかし、接客って簡単には教えられないものです。だから、非正規の人たちを何とか正規にしようと思っています。
2. 今、従業員は2万6000人ぐらいで、店舗の正社員が1600人ぐらい。定時社員と呼ぶ月120時間ぐらい働いてくれているパートさんたちが2500人。この2500人ができるだけ正社員になって、店の顔になってほしい。

(参考:「日経ビジネス」2020年8月17日号)

古典に学ぶ

法説に出座

(解説) 駿河において東照公はしばしばその法説をお聴きなされた。長い年月にどれほどであったか分명한らぬが天海の伝記に書いてありましたところでは、ある年の九十日の間に六七十回の法説があったと云うてあります。しかしして寸暇あればその間に法説にご出座なすったのです。南光坊天海が常に顧問となっていていろいろのお話を申し上げたということである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)